



横手市議会だより

あなたと市議会



CONTENTS

- 3月定例議会・1月臨時議会の概要 …… 2～3
- 会派代表質問、特別委員会等の報告 …… 4～6
- 一般質問 …… 7～11
- 常任委員会・分科会審査報告 …… 12～14
- 議会の活動報告 …… 15
- 市民の声、議会の主な動き …… 16

北へ帰る準備を始めた白鳥たち

撮影者：梅津 克義さん

撮影場所：雄物川地域（3月20日撮影）

No.49

平成29年
4月15日号

市長提案の議案全て原案可決

3月定例議会の概要

3月定例議会の録画映像は、横手市ホームページの議会のページをご覧ください。また、「市議会トップページ」の「市議会動画チャンネル」

3月定例議会のあらまし

3月定例議会は、去る2月27日から3月22日までの24日間の日程で開催されました。

初日は、諮問案件4件と承認案件1件を可決し、報告案件6件の報告を受けました。また、平成28年度一般会計補正予算(案)や横手市介護保険条例の一部改正等37件の議案が提案されました。翌28日は平成29年度一般会計予算(案)等25件の議案が提案され、それぞれの議案は陳情と共に3つの常任委員会と一般会計予算特別委員会に付託して審議が行われました。

最終日の本会議では、各委員長から委員会の審査結果の報告を受けた

後、議案の採決が行われました。採決の結果、市長提案の議案は全て原案のとおり可決されました。

3つの新規条例を可決

● **公共施設等総合管理推進基金条例**
目的が類似する既存の基金の一部を統廃合することにより、市の財産を統廃合することにより、市の財産経営推進計画に基づいた施設の改修などの財源を確保するために制定されました。

● 市営墓園条例

これまで墓園ごとに定めていた条例を廃止し、市営墓園の統一した管理運営を行うため、新しく定められたものです。

● 土地改良事業分担金徴収条例

市が行う土地改良事業に要する費

用に充てるための分担金を賦課徴収するために制定されました。

「えがおの丘」温水プール存続を求める陳情を採択

本会議での採決の前に、1名の議員が賛成の立場で討論しました。主な趣旨は、「えがおの丘のプールを温泉施設としてではなく体育施設として存続してほしい」という陳情者の意見を踏まえると、このプールでは、各種健康運動教室が行われており、子どもから高齢者まで多く方に利用されている。また、市としてのプールの在り方の議論、説明もななく、閉鎖をしたら考えることになりかねない、廃止ありきの当局の説明には異議がある」との内容でした。

会派・議員名	賛否一覧表 (平成29年3月定例議会)																				議決結果			
	公明党	日本共産党	新風の会				さきがけ				市民の会				新政会				みらい	蒼生	賛成	反対		
① 議案第10号	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	16	7	原案可決
② 議案第44号	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	22	1	原案可決
③ 陳情28第16号	○	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13	10	採 択
④ 陳情29第3号	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	19	不採 択
⑤ 監査請求の動議	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	11	可 決

○:賛成 ●:反対 欠:欠席
●:採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他は全会一致で可決されました。



- ① 横手市出産祝金支給条例及び横手市長寿祝金条例の一部を改正する条例
- ② 平成29年度横手市後期高齢者医療特別会計予算
- ③ 「『えがおの丘』温水プールの存続について」の陳情(えがおの輪 会長 門間 諭氏)
- ④ 「共謀罪(テロ等組織犯罪準備罪)法案の国会提出に反対することについて」の陳情(秋田県春闘共闘懇談会 代表委員 渋谷 一氏 外1名)
- ⑤ 地方自治法第98条第2項の規定に基づく監査請求の動議について

1月臨時議会の概要

1月24日に開催された臨時議会では、3件の専決処分の報告を受けた後、平成28年度一般会計補正予算(第5号)について審議が行われました。

補正の内容は、横手市に進出を予定している企業の新社屋完成までの間、仮センターとして貸し出しする条里南庁舎の改修工事費など900万円を増額補正するものです。審査は、一般会計予算特別委員会総務文教分科会に付託して行い、貸し出し終了後の活用や誘致企業に対する支援の基準などについて質疑がありました。

本会議の討論では、4人の議員が賛成討論し、企業進出により雇用が創出され、人口減少に歯止めがかかるとの観点から賛成の立場を示すものの、仮事務所を決めるプロセスや企業退去後の庁舎の使い方には疑問を投げかける内容でした。

採決の結果、補正予算は全会一致で可決しました。

起立採決の結果、賛成多数(賛成13名、反対10名、欠員2名、議長除く)で、陳情を採択することに決定しました。

監査請求の動議を可決

すべての議案審査終了後、監査請求を求める動議が提出されました。

提案者が動議の趣旨を述べ、「3月9日の一般質問に関連し、議長から市長に対して資料の請求を求めた案件について、全員協議会で説明を受けたが、このうち浅舞スポーツセンター売上金等の一時紛失と障がい者就労継続支援訓練等給付費の支払

い遅延については、なお調査が必要であることから監査請求を求める」と説明がありました。

採決の結果、賛成多数(賛成12名、反対11名、欠員2名、議長除く)で議案が監査請求することに決定しました。

人権擁護委員の推薦

任期満了に伴う人権擁護委員に、渡部一男氏(新任・平鹿)、佐野洋子氏(再任・平鹿)、神原英夫氏(再任・平鹿)、照井静信氏(再任・平鹿)の4名を推薦することに決定しました。(佐々木 誠)



※動議…主として会議の進行または手続きに関して、議員から議会に対して、または委員から委員会に対してなされる単純な提議のことをいいます。動議の成立には本会議では提出者の他に所定の賛成者が必要です。委員会は1人でも可能です。成立すれば議決となり議決されます。

ココが聞きたい

会派代表質問、一般質問で市政を問う



会派代表質問より（左上から）
市民の会 菅原 正志 議員・新風の会 高橋 聖悟 議員
新政会 佐藤 清春 議員・さきがけ 塩田 勉 議員

会派代表質問・・・P4～6上段
一般質問・・・P7～11

「二次元コード」をスマートフォンのバーコードリーダーで読み取るとYouTubeで、録画中継をご覧いただけます。



横手市議会マスコットキャラクター しらとり議員

交流センターの事業推進について

市民の会 菅原 正志 議員



●市長の市政運営について
問 残任期間への取り組みと2期目の挑戦について伺う。

答 残りの任期は、動き始めた計画などを着実に進めたい。2期目については、応援していただける方々がいれば考えたい。

問 政策過程における市民参加を促進すべきと考えられるか。

答 個別事案ごとに最善の手法を選択し、市民の皆様が形成過程に参加する機会を確保していく。

問 行政サービスのさらなる質の向上をどう図るのか伺う。

答 市民への対応の質の向上の取り組みを強化する。また、平易な言葉を使用するなど、わかり易さに配慮する。

●十文字地区における統合小学校と庁舎建設について

問 小学校建設と内容の議論を並行して進める必要がないか伺う。

答 地元への情報提供、意見を伺



小学生と地域住民のふれあい交流会（十文字西公民館）

い教育委員会と学校現場とで検討する組織を立ち上げる。

問 庁舎建設では、文化施設との複合化を図り、周辺整備も年次計画を示すべきではないか。

答 新年度予算に調査費を計上している。周辺整備は、新たな委員会を設置し、検討する。

●交流センター化と地区会議の今後について

問 地区会議再編の考えを伺う。

答 これまで以上に住民と行政とが充実した話し合いができるよう、再編などを含めて検討していく。

FM/DMOについて

新風の会 高橋 聖悟 議員



●財産経営推進計画（FM計画）について

問 老朽化も含め課題のある施設（体育館、市民・文化会館、図書館等）の機能、あり方を今後どうしていくのか議論がみられない。有利な財源探しを含め、市民や議会と協議を進めていかなければならないのではないか。我々会派では、市民をも巻き込んだ基本構想検討委員会の設置やDBO^{※1}、PF^{※2}の公民連携手法を導入し、施設再配置の検討や、地域、まちづくりの観点から、今後の施設機能やあり方を検討すべきと提案する。

答 それら施設の更新については、合併特例債の期限が迫る中、早急に判断していかなければならないと承知している。FM計画の見直しの中で検討していく。

●4K/DMOについて

問 よくて版DMOと大いに連携して観光経済的の事業を進めてい



建設から40年近く経過した横手体育館

くことが、今の行政を見ていると必要と感じている。連携はどう考えているか。

答 観光地域づくりの実現には相互連携、住民をも交えた協働が不可欠であり、市の力を結集し共に取り組んでいかなければと考えている。

問 食・農・歴史・情報など、各課それぞれで観光事業が行われている現状をまとめる組織がなければ、DMOとの連携は難儀だ。戦略室等の設置が必要と思うが。

答 必要だと考えている。

若者の定住促進のために市独自の奨学金返還助成制度の創設を

新政会 佐藤 清春 議員



●横手市奨学金制度について

問 できるだけ多くの人に利用してもらうため、募集時期を早めることができるか。

答 他の奨学金制度の募集時期を勘案しながら、応募の予約受付なども含め検討していく。

問 若者の地元定着につなげるためにも、市独自の奨学金返還助成制度を創設すべきと思ふがどうか。

答 将来の横手を担う人材育成に有効な手段である。返還金の助成を含む利用者の負担軽減について市長部局と調整しながら今後検討していく。

●農業振興について

問 小型の未成熟スイカに関する特許取得による今後の取り組みについて伺う。

答 現在、市内の農業法人と民間企業が協力して、このエキスを活用した健康食品サプリメントの試作品製造のためのサンプル作りに



雄物川地域局

入っている。スイカに新たな価値が生まれるものと期待がかかるので、今後は、農林部と商工観光部が主体となり、後押ししていく。

●財産経営推進計画について

問 雄物川庁舎の改修について、どのような検討をしているのか。

答 会議室として使用している昭和53年建築の庁舎を改修する計画。29年度に耐震補強診断を行う予算を計上しており、その結果を受け、総合計画や財産経営推進計画に基づき実施していく。

※1 DBO…民間が設計・建設・運営・維持を一括して行い、施設の所有・資金調達は公共が行う手法。
※2 PFI…公共施設等の建設・維持管理・運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。

※3 DMO…Destination Marketing/ Management Organizationの略。さまざまな地域資源を組み合わせた観光地のブランドづくり、情報発信、販売促進などについて、地域が主体となって一体的に行う観光地域づくりの推進主体。

小学校の英語の教科化に向けて十分な対策を

さきがけ 塩田 勉 議員



●小学校における外国語教育の取り組みについて

問 先頃、英語に親しむ活動を小学校3・4年に引き下げ、5・6年は教科とする学習指導要領の改正案が公表された。当市の小学校における英語教育の現状と英語教科化への対応を伺う。

答 平成23年度に5・6年生での外国語活動が必修となつて以来、学級担任とALT*が協力して指導する体制を整えるなど、指導体制や指導方法の充実に努めてきた。新学習指導要領への移行をスムーズに行うために、30年度から3・4年生での外国語活動の先行実施を考えている。ALTを増員し、指導体制のさらなる充実を図っていく予定である。

●財産経営推進計画について
問 廃止となった公共施設の解体の見通しについて伺う。

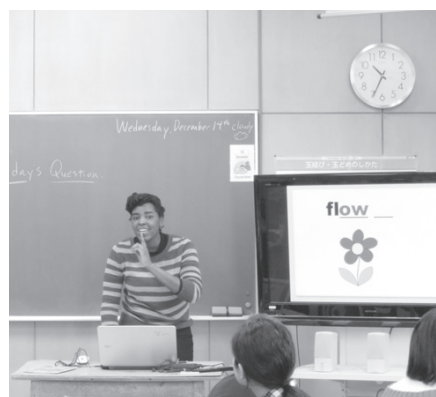
答 利活用や貸付け、売却の見込

みのない施設の解体を検討している。32年度までは解体工事に合併特例債が充てられるため、速やかにかつ重点的に解体を進めていく。

問 解体予定の施設に対して、地元や民間企業から利活用の要望があった場合の対応は。

答 有効活用できるものであれば、公募等の措置を経ながら利活用の道を探っていきたい。そのプロセスを踏んだ上で、貸付けや解体に向かっていく。

■その他の質問
防災対策について



小学校で外国語の指導を行うALT

公共施設の在り方に関する調査特別委員会からの中間報告

少子高齢化や社会構造の変化により横手市の財政状況の悪化が懸念される中、市の公共施設の在り方、適正管理や有効活用等の課題を明確にしていくことを目的に調査、検討を行い、地域の特性や要望を踏まえた活用策について提言しました。

横手市の公共施設等は909施設で2,284棟、この他に道路、上下水道、公園施設等すべてを保有し更新、維持し続ける場合に、公共施設の建替えや維持補修費に年間約75.7億円、土木系公共施設に約73億円の合計約148.7億円の費用が年間に必要と試算されております。こうした状況を踏まえて、当委員会は、これまで7回の協議、検討を重ねた結果、保有総数の圧縮は喫緊の課題と捉えるべきであり、各委員の共有した方向性として「大型施設の複合化」と「市民参加の仕組みづくり」が挙げられました。

これを受けて市当局に対し、市民福祉の向上に繋がる揺るぎない方向性を早急に示していただくよう要望し、中間報告としました。(菅原 恵悦)

議会改革推進会議 議会基本条例の検証結果を報告

議会改革推進会議では、議会基本条例に規定された各条文がその目的に合致しているか、また、私たちの議会活動が目的を達成するための活動になっているのか検証を行いました。検証の結果、11項目について新たな取り組みや改善を求める提案を議長にしましたので、一部をご紹介します。

①議員間の自由討議について

自由討議は、市政の課題に関する論点などを明らかにするため、極力会議中に行い、どのような議論がなされたのか会議録に残るよう求めました。

②政務活動費について

通信費の取り扱いや、研修会報告書のあり方など、運用基準の見直しを提案しました。

③議会への説明資料について

市から提案される重要案件については、政策を必要とする背景、提案の経緯、総合計画との整合性など、議会基本条例に則り資料を作成し、説明を求めるよう提案しました。(土田 祐輝)

雪対策における地区活動との連携は 補助金制度の拡充や検討を進め活動を支援していく

本問 利博 議員



問 「横手市総合雪対策基本計画」5カ年計画の最終年度を迎えるにあたって、これまでの検証と取り組みについて伺う。

答 8地域局でそれぞれ雪対策連絡会議を開催して課題等の検討を行っている。次期計画は、基本目標を継承し、具体的な実施計画となるアクションプログラムとなる再構築を行っていく。

問 大雪に対しては特段の除雪態勢が必要と考えるが対応について伺う。

答 通常の除雪に加え幹線道路やバス路線等重要路線の口除雪のほか、夜間を含めた運搬排雪等により道路幅員の確保を図る。雪で生活道路の幅が確保されない場合、拡幅除雪を行い、次の段階で運搬排雪を行う。

問 今後のまちづくりにおいて、地区会議や自主運営組織が重要視されているが、雪対策について共助組織や

地区活動との連携をどのように考えているか。

答 大雪時の生活道路の除排雪は地域住民に頼らざるを得ない場面が想定される。地域自ら除排雪の作業を行う共助組織の活動が重要になると考える。補助金制度の拡充を図りながら、活動を支援していく。

問 地区活動で行う除排雪は、大雪時の対応も考えられると機械化を進める事が不可欠だが、安全作業のための講習や保険等の支援を検討していく考えはあるか。

答 市内全域で支援が可能か今後の検討課題としたい。



共助組織による排雪作業の様子

大規模スポーツ施設の今後の整備方針について

改修・新設を問わず、市民を交え個別計画を立案する

小野 正伸 議員



問 昨年のアリーナ構想は残念ながら実現には至らなかったが、大型体育館新設の待望論は未だ根強く語られている。横手市財産経営推進計画(FM計画)では既存の体育館は長寿命化、また、これ以上ハコモノはいらぬとの意見もあるが、今一度、仕切り直しをして市民の皆様と共に前向きに議論する機会が必要と考える。市の対応を伺う。

答 大型体育施設の建設構想については、スポーツ環境の充実という側面から、時期はともかくとして、実現を望みたい施設である。元気なまちを維持していくためには必要な施設であり、市にとっても「持ち続けたい夢」「いつかは実現したい夢」と思っている。しかしながら、この件に関しては今しばらく熟慮の時間をいただきたい。

平成30年度から始まる



昭和53年度建築の横手体育館

問 米の生産調整(減反)廃止を受け、多くの農家が今後の営農に関して不安を抱えている。米の生産調整への対応として29年度予算にどのように計上し、具体的にどう取り組んでいくのか。

答 平成30年度からは行政主導による生産数量目標の配分が廃止され、農業者と出荷業者(JA等)が販売状況や経営戦略に基づき、生産量を決定することになる。産地間競争に打ち勝つために、カメラシ対策として米の色彩選別機の導入補助を新年度予算として提案している。

Q 市民の幸せのための産業振興戦略ビジョン、計画を示せ

A 第2次総合計画に沿って行う

佐藤 誠洋 議員



問 市の産業振興政策を進める上では、公表されている国のデータやリーサス^{※1}等を活用して的確な現状分析を行うことが重要である。さらに市民の幸せのため、10年後の市のあるべき姿を描かなければならない。これを実現するための戦略、ビジョンを策定する必要があるが、市長の見解を伺う。

答 市の第2次総合計画の基本構想は、将来像を明らかにした「まちづくり」の指針になるものであり、現在、この計画に沿って各種事業を行っている。

問 合併前の旧横手市で策定した「産業戦略ビジョン」は、今にも通じるものである。具体的に市の稼ぐ力を得るために、新たな横手市の「産業戦略ビジョン」を策定すべきでは。

答 長期的、中期的指針をもってすべての事業に取り組むべきものと考えている。



昨年10月に開催された「第1回よこてシティハーフマラソン」

問 スポーツ立市宣言を行った後のこれまでの事業は、何の計画、裏づけがあつての事業であるのか伺う。

答 27年度までの第5期スポーツ振興計画を策定し、事業を実施してきた。現在スポーツ立市よこてを具現化するため、新たな計画の策定に着手している。

問 新たな計画を示さず事業を実施しているのはお粗末だ。市民・議会を巻き込んだ基本構想を検討する場を立ち上げ、議論を深めるべきでは。

答 その場合は、そのような手順でやっていく。

Q 増田まんが美術館の改修の方向性は

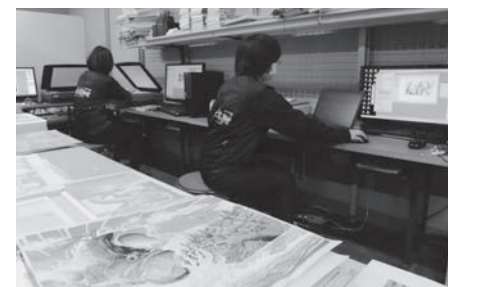
A 原画収集とアーカイブ事業で世界一を目指す

寿松木 孝 議員



問 増田まんが美術館の整備は、当初は県の未来づくり協働プログラム交付金を活用し、原画の収集などのアーカイブ事業を基本とした改修事業との説明だった。その後、施設の老朽化による大規模改修などの追加工事の方向が示され現在に至っているが、施設整備のコンセプトは。

答 県の未来づくり協働プログラム横手市プロジェクトの柱は、マンガ原画の収集・展示に重点を置いた美術館にリノベーションし、増田の町なみとの相乗効果を図ることを掲げている。マンガ原画を収集し、収蔵原画数で世界一を目指すとともに、原画を整理・保存することにより、美術館の資産そのものの価値を高めることを軸に進めていく。それに併せて増田の町なみを訪れた方々にもしっかりとしたおもてなしが出来る



マンガ原画をデジタル保存 (増田まんが美術館)

問 原画収集などのアーカイブ中心の施設と誘客のための観光施設では、当然違ったものになる。増田の町なみを訪れる方々とまんが美術館の来場者の客層の違いや交通アクセスの問題などもある。アーカイブ事業に特化することで来場者が増加していくものと思われる。何のための整備なのか今一度、基本に立ち返った整備を目指すべきでは。

答 原画収集とアーカイブ事業で世界一を目指すとした基本方針に添った施設整備を目指したい。

Q 総合計画・総合戦略・財産経営推進計画をどう位置づけるか?

A 総合計画を軸に事業評価し、まちづくりを進める

立身 万千子 議員



● 策定から1年経過した3つの計画や戦略の中間総括

問 第2次総合計画の事業評価の本格実施に向け指標の確性等を確認したことに対する具体的な評価は。

答 約550の事業について確認した。本格実施となる29年度は、評価結果を公開していく。

問 まち・ひと・しごと創生総合戦略について、新施策の立案や見直しなどどう是正したのか。

答 雇用創出の分野ではインターンシップ促進支援を、結婚支援の分野では出会いの場創出を少人数実施に変更するなどしている。

問 財産経営推進計画(FM計画)は、まちづくりの観点からどう実行させるか。

答 公共施設の適正な維持管理と再配置を進め、多機能化や複合化で市民満足度を高めることに取り組む。



旧金沢小学校から生まれ変わった総合交流促進施設「金沢孔城館」

問 市民が主役の地域づくりの活動を進めるため、公民館の地区交流センター化や地区会議の機能強化をどう進めるか。

答 地区交流センターの中で地区会議の機能を担う体制が望ましいが、地域住民の協議を最優先する。

問 安全で快適なまちづくりを進めるために公共交通、地域包括ケアシステム等の課題は全部つながっている。地域住民と行政でチームを結成できないか。

答 多くの部署が担当し専門性を生かした施策を進めており、一体的な取り組みは難しい。

Q 非違行為の報告と措置は適正か?

A 隠すことは庁内全体の不利益になる

高橋 和樹 議員



● 市長の政治姿勢について

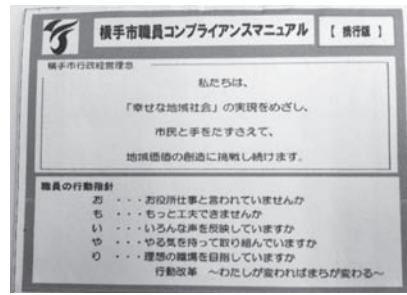
問 市長が目指すべき横手市役所のコンプライアンスとは何か。また、職員の「非違行為」が発生した際の報告と措置は適正にされているのか。

答 常々職員には、市民の期待と信頼に応え、真摯に市民に向き合うことを求めている。そのため、高度で確かな倫理観を持ち、法令遵守はもとより、社会規範やルールを含めて遵守する姿勢を職場風土とするよう継続した取り組みを進めている。

問 職員の「非違行為」については、速やかな報告を求め、市民の皆様への信頼回復を念頭に、確実な調査を行った上で、規程に基づく処分を行い、二度と繰り返されることのないよう適切な対応をしていく。

問 現在の横手市の上層部は、ミスの報告を公表し、

答 重要な事案に対しては、それを内部で共有し、再発しないように指示している。不正を隠すことは、庁内全体の不利益になると思つし、失敗やミスも財産として受け止め、それを教訓にすることに全体レベルアップに繋がると思う。よって、発生した事案に対してしっかりと向き合っていく必要があると思つ。



職員が常に携行している「コンプライアンスマニュアル」

※1リーサス(RESAS)…地方自治体のさまざまな取り組みを情報面から支援するために、国の「まち・ひと・しごと創生本部事務局」が提供する産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約して可視化する地域経済分析システム。
 ※2アーカイブ…記録や資料などをひとまとめにして保存すること。

Q 子どもの貧困の現状認識と問題解決に向けた取り組みは

A 横手市子どもの貧困対策推進計画に基づき、具体的な関係を構築する

土田 百合子 議員

問 子どもの貧困対策について伺う。

答 ひとり親の半数以上が「子育てにおける悩みを相談できる相手がいない」と答えている。精神的な面において、大きな負担を抱えていることがわかった。相談窓口を設けているが、さらに話しやすい環境を作り、個々に必要な施策が提供できるようにしたい。

問 日本語が話せない外国人の対応のための「多言語対応救急アプリ」の運用は。
答 総務省消防庁では、2025年の東京オリンピック・パラリンピックに合わせ、外国語による119番通報が全国24時間対応できる体制を築く方針を示した。消防本部としては、将来的に必要なシステムと考へ、導入に向け検討する。

問 その他の質問
答 認知症徘徊者の見守りシステムについて



問 民間譲渡でプールは残せるのか。応募がなかった場合、市で残せるか。
答 可能性がゼロではない。応募に期待したい。応募が無い場合、「えがおの丘」は廃止。代替としてシルバニアエリアを使ってほしい。



行方不明者を捜す行動実験の様子 (写真提供：横手あんしん見守りネットワーク協議会)

Q DMOの肝は「人材」である。誰が経営戦略を立てるのか？

A まだ決まっていない

奥山 豊和 議員

問 よくて版DMOの旗印について昨年6月から聞いている。これが決まらなければ、何のためにマーケティング・マネジメントをやる組織なのか定まらない。組織化の方向性が当初の説明と変わっていないか。

答 内部の協議が遅れていることには責任を感じているが、DMOとして「横手市観光推進機構」を立ち上げる方針に変わりはない。

問 DMOにおける経営戦略を立て、効果的に事業を執行する専門的な役割を担う人材についての想定は。
答 まだ決まっていないが、外部の方にも参画してもらうことをお願いしている。

問 地域の稼ぐ力を高めるための肝となる人材が決まっていないというのは、これはDMOとは呼べない。このテーマの下で、みんなで横手市の観光地域づくりをしようという目的の共有

問 DMOにスポーツ組織を加え「スポーツ立市よこて」を前面に押し出すべき。将来、施設の管理運営を任せられるのでは。
答 DMOは市の総ぐるみであるべきだと思う。いい提案だ。



昨年7月、平鹿生涯学習センターにて行われた「DMOを考える～観光地域づくり市民勉強会」

※DMO…Destination Marketing/Management Organizationの略。さまざまな地域資源を組み合わせた観光地のブランドづくり、情報発信、販売促進などについて、地域が主体となって一体的に行う観光地域づくりの推進主体。

Q 「えがおの丘」のプールを体育施設として残すべきではないか

A 民間応募が無いときは廃止したい

齋藤 光 議員



問 民間譲渡でプールは残せるのか。応募がなかった場合、市で残せるか。
答 可能性がゼロではない。応募に期待したい。応募が無い場合、「えがおの丘」は廃止。代替としてシルバニアエリアを使ってほしい。

問 公募要項に、住民、利用者への思いをどう入れるか。
答 重要性は認識するが、多種多様な要望を条件に取り入れることは、民間譲渡を進める上での阻害要因になることも想定される。譲渡候補者との最終調整の段階で交渉していく。

問 譲渡に際して、一斉公募になぜこだわっているのか。
答 複数施設に関心を持つ事業者がいることが分かったので、施設譲渡に効果的。

問 プレゼンテーションは公開で行うべきではないか。
答 応募者の財務内容や、企画提案内容が周知される状況は好ましくないため、



問 公開の検討はしていない。
答 今後の市の財政負担リスクの軽減を図りつつ、施設の維持継続を第一に考えたいもの。



えがおの丘のプール

Q ワクチンの定期予防接種ってどんなこと？

A 予防接種法に基づいて市町村が行う予防接種のことを言う

佐々木 誠 議員



●予防接種事業について

問 任意予防接種事業と定期予防接種の違いについて伺う。
答 定期予防接種については、対象となる疾病や対象者、接種期間などが定められており、接種費用は、原則、公費負担となっている。任意予防接種の費用は自己負担となっているが、市では助成をしている。

問 「ワクチン接種は副反応が発生する」という認識を持って対応しているのか伺う。
答 個人の体質や体調により効果の現れ方が違うことから副反応が起こる可能性はある。まれに脳炎や重篤な反応が報告されている。

問 「副反応である」という認識をされないとい医療費の支援はできないということだが、この方針に変わりはあるか伺う。
答 認定には専門家の審査



●十文字地域統合小学校
問 大型事業により広大な農地が転用された時、転用による周辺の農地への影響が考えられる。近隣農業者への事業説明により、不安解消に努めるべきと思うが対応について伺う。
答 十文字地域小学校統合事業は、農振除外や農地転用の許可申請を行い、用地買収を実施する予定である。建設用地の確保にめどがつき次第、周辺住民や農業者の方々への説明会を開催したい。

問 内部の協議が遅れていることには責任を感じているが、DMOとして「横手市観光推進機構」を立ち上げる方針に変わりはない。

問 目標の共有は大切だが、市民を巻き込んだ形で進められていないのが実態。今後、いろいろな業種に会員を広げて議論していきたい。

厚生常任委員会

土田百合子 高橋和樹 菅原恵悦 播磨博一
土田祐輝 佐藤誠洋 木村清貴 阿部正夫

直営施設としての健全な施設運営 を求める「附帯決議」を決定

◆平成28年度横手市市営介護サービス事業特別会計補正予算

問 白寿園の現在の入所待機者はどの程度いるのか。

答 申請者は280人ほどいる。短期入所を除くベッド稼働率は、現在95%程度である。介護職員の数も国が定めている基準数と同数であるが、実際の運営では不足している。介護事故を避けるため、職員数に合わせて入所者を調整しているが、直営施設なので本来は満床でなければならぬと認識している。

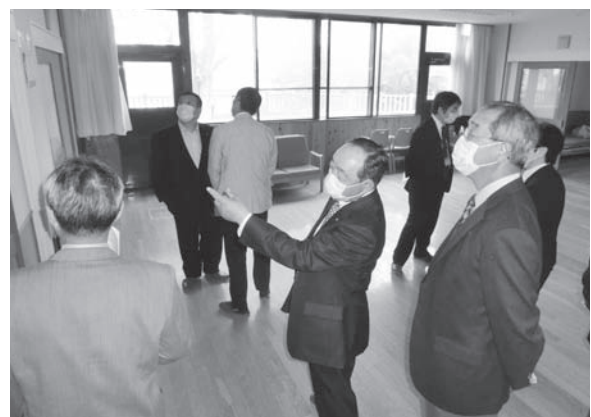
◆横手市出産祝金支給条例及び横手市長祝金条例の一部改正

問 加盟店が少ない現状において、利用場所を制限する商品券での支給は、時期尚早ではないか。

答 市場規模を拡大し、加盟店を増やす狙いがある。今後、祝金のほかにも支給する賞品や手当などにも拡大していきたい。

問 商品券の使用期限が6か月のため使いにくい。無期限にできないか。

答 無期限にするためには、財務局に登録しなければならず、非常に難しい。



白寿園の認知症棟を視察

問 白寿園の今後の運営について。

答 白寿園を含む健康の丘おもしろ施設については、直営の前提で今後事業計画を進めていく。正規職員の採用、正規職員と非常勤職員の比率も含めて、その将来について年次計画を検討していきたい。

本案可決後、白寿園の健全な施設運営を求める3項目の附帯決議案が提出され、起立採決の結果、起立全員により附帯決議をつけることが決定されました。

◆平成29年度一般会計予算

問 緊急通報体制において、居住地区によって警備保障会社と社会福祉協議会に委託先が分かれている。今後この手法のまま継続するのか。

答 地域での支え合いの体制ができていない所は、引き続き社会福祉協議会に委託して、そのつながりを大切にしたい。

問 胃がん検診率が低いが、バリウムによる検診方法が敬遠されているのではないか。血液検査を導入する考えはあるか。

答 受診者アンケートでも、内視鏡に

変えた理由として、バリウムによる検診を敬遠した人が多かった。血液検査は、まだ国の基準では認められていないため、確実性や対応できる医療機関も含め、これから検討する。

問 証明書のコンビニ交付により、コンビニ発行割合を将来的にどの程度見込んでいるのか。

答 先行している自治体では、2割がコンビニ交付になっている所もある。横手市の窓口で発行している対象の証明書は約10万枚であるため、2万枚を目指したい。

(土田 百合子)

産業建設常任委員会

青山 豊 小野正伸 佐々木喜一 齋藤光司
加藤勝義 佐々木 誠 佐藤清春 塩田 勉

「えがおの丘」温水プール 存続の陳情を審査

◆平成28年度一般会計補正予算

問 JA秋田ふるさとのジュース加工場整備計画について。

答 平鹿地域にある選果場倉庫をリニューアルして加工施設にすることを考えているようだ。りんごを主体にトマトとぶどうも含め、現状より1.2〜1.5倍の製造能力を持った施設にする計画のようである。

◆平成29年度一般会計予算

問 増田地域にはハード・ソフト事業含めて多角的に予算が付けられているが、最終的にどういう形を目指しているのか。

答 そこに住んでいる人が住みやすく仕事をしやすいということのほか、最終的には、訪れていただいた方々に横手市全域で消費活動をしていただくことを目指している。

問 町内会管理の街路灯のLED化が予定されているが、切り替え後の維持管理はどうなるのか。

答 通常の街路灯と同じように市の管理とする予定であるため、電気料の支払いや不具合があった場合の修繕は市で行うことになる。

◆平成29年度下水道事業会計予算

問 人口減少や高齢化が進む中で、年間総処理量を前年度比2.26%増で見込んだのはなぜか。

答 実際に使用料収入が伸びている状況にあり、それに伴って処理水量も増えている。新年度予算では、これまで低めに抑えていた使用料収入をある程度実績に近づかせたいと考へ、処理水量も若干高めに設定した。

◆陳情第16号「えがおの丘」温水プールの存続について

審査の参考とするため、陳情団体の関係者に出席を求め、意見陳述の後、参考人に対する質疑を行った。

問 仮に市が新しいプールを作った場合、えがおの丘が廃止になってもいいという考えなのか。

答 そのとおりだ。市にはプールの構想を持ってもらいたい。ただ、立派なプールができるまでは存続してほしい。

問 残してほしいのはプール機能だけということか。

答 温泉の経営の厳しさは何と残している。プール機能だけでも何とか残してほしい。

引き続き、市当局との質疑を行った。その後の討論では、委員より「健康維持増進を図るためにプールは必要。そういう意味であえてプール施設という捉え方をして存続に賛成したい」「えがおの丘はもとも健康増進施設としてスタートした。それからすると、健康の駅と同じような性格を持つ施設だ。一概に温泉施設と捉えるのはいかがかと思う」との賛成討論があった。

起立採決の結果、起立多数（賛成5、反対2）により、採択すべきものと決定した。

(青山 豊)



産業建設常任委員会審査の様子

総務文教常任委員会

高橋 聖悟 立身万千子 菅原 正志 奥山 豊和
本間 利博 寿松木 孝 佐藤 忠久 遠藤 忠裕

山内中が横手南中に編入

◆平成28年度一般会計補正予算
問 入学準備金の前倒し支給の検討は。
答 要保護、準要保護世帯への新入児童生徒への学用品費については、29年度中に30年4月入学分を前倒し支給できるよう検討中である。

◆平成29年度一般会計予算
問 次期学習指導要領の英語教育は。
答 平成32年度に全面实施される予定の次期学習指導要領においては、英語教育の早期化・高度化が図られ、3、4年生ではコミュニケーションを通して外国語の楽しさを味わう外国語活動を、5、6年生では教科としての英語が行われることが決定しており、話す、聞くに加えて、読む、書くといった要素が含まれてくるということが言われている。小学校教員の英語に関する指導力を高めていくことが喫緊の課題である。

◆金沢城跡の発掘調査の今後は。
答 八幡宮の裏側に囲郭集落跡と思われる、より古い遺跡を掘り、次の段階としては、陣館遺跡の道を挟んで反対側の柵面清水のあたりを掘る予定である。

◆重伝建、増田エリアにどれだけの起債があつて、予算をどれだけかけているかトータルの議論ができていない。財政として、分析や調査などしているのか。
答 増田地域の重伝建や増田まんが美術館、文化財等も含めて、複数の科目に予算計上されているため、全体像がつかみ切れていない状況である。予算編成に留まらず、財政課の中で一定の名よせをして、予算総額を意識して協議をしている。

◆地方債の今後の見通しについて。
答 合併特例債の発行期限が、平成32年度になっており、起債を財源とする事業については、平成32年度のある程度意識して財政運営を進めることにしている。地方債残高については、予算編成の際に各所管課から平成33年度までの主要な事業の報告を受け、ヒアリングを行った現時点での事業計画を集計した数字であるが、平成31年度の688億円が当面のピークと見込んでいる。

◆横手市立学校設置条例の一部改正
問 平成30年に山内中学校が横手南中学校に編入統合されることについて、教育環境が変わることへのサポートは。
答 平成26年度から、山内中の生徒が横手南中に来て、同じ学年の子どもたちと一緒に授業を進める合同授業を継続実施している。平成28年度は新たに、1年生が合唱コンクールに参加して交流を深めている。29年度も合同授業、生徒会の交流、学校行事の交流を計画している。また、市教育委員会が主導して山内中学校統合準備委員会を立ち上げるので、ソフト面についても十分に配慮していきたい。



一部改修される横手南中学校 (高橋 聖悟)

タブレット端末導入推進会議視察



安城市議会にて研修

12月20～21日、タブレット端末導入推進会議では東京都にあるサイボウズ社と愛知県安城市を視察してきました。サイボウズ社は議会で使用しているグループウェアの開発社であるため説明者よりさまざまな機能の紹介や便利な使いこなし方について伺うことができました。また、資料などによると社員の職場環境にかなりの配慮がされていて競争の激しいIT関連企業的一端を垣間見たような気がしました。安城市議会では横手市議会より半年早くタブレットを導入、同機種同システム採用ということで今後予想される課題や対処法など意見交換をしてきました。市民に導入の効果を最大限に還元できるよう活用する決意を新たにしました。(播磨 博一)

横手市議員研修会を開催



講演する江藤俊昭教授

3月23日、かまくら館で議員研修会を開催しました。山梨学院大学大学院研究科の江藤俊昭教授による「どうする？地方議員の待遇と後継者～住民自治の根幹としての議会を作動させる～」という講演でした。横手市議会も議会基本条例を作って議会改革を進め「議会の見える化」を追求していますが「議会は議員のものではなく住民のものである」と教授は強調されました。議員定数や報酬を考える場合も、住民自治を充実させるための条件として議論するべきであり、多様な住民が将来議員になりやすく、活動しやすくするために、市民と議会が意見交換する大切さを学びました。(立身 万千子)

友好都市と交流



厚木市



那珂市

2月15～16日、神奈川県厚木市議会から名切副議長はじめ7名の皆さんが、茨城県那珂市議会からは中崎議長はじめ8名の皆さんが雪の横手市を訪れ、増田の内蔵やかまくらなどを見学しました。交流会では、お互いの市の取り組みについて情報交換し、今後も活発な友好関係の継続を誓いました。

横手市議会公式フェイスブックページ始動!



横手市議会基本条例に規定する議会広報活動のさらなる充実を図るため、4月より「横手市議会公式フェイスブックページ」を開設しました。年4回開かれる定例議会中のみならず、私たち市議会の日々の公式行事や活動の様子など、よりきめ細やかでタイムリーな情報発信を心掛けてまいります。この新しい取り組みが、多くの皆さまにとって市議会に対する門戸を広げ、より身近に感じていただけるきっかけとなるよう、広報委員一同、しらとり議員共々努力してまいります。なお、誰でもみることのできるSNSという性質上、お寄せいただいたコメントに対する返信は原則行わないことをご了承下さい。市議会へのご意見ご要望は、これまで同様、議会事務局までお願い致します。(奥山 豊和)

議会の主な動き

平成29年1月～3月

1月

- 12日 全員協議会
- 17日 正副委員長会議、議会運営委員会、全員協議会、議員懇談会、公共施設の在り方に関する調査特別委員会
- 19日 FM放送議会番組収録
- 20日 総務文教常任委員会協議会、タブレット端末導入推進会議
- 24日 市議会1月臨時議会、議会運営委員会、議員懇談会、全員協議会、産業建設常任委員会協議会

2月

- 1日 広報分科会、議会改革推進会議、公共施設の在り方に関する調査特別委員会
- 3日 秋田県市議会議長会定例会
- 6日 FM放送議会番組収録
- 7日 厚生常任委員会協議会
- 8日 総務文教常任委員会協議会
- 9日 全国市議会議長会理事会、評議員会
- 15日 厚木市議会・那珂市議会との友好都市交流(～16日)
- 21日 正副委員長会議、議会運営委員会、全員協議会、議員懇談会
- 22日 公共施設の在り方に関する調査特別委員会、タブレット端末操作研修会(～23日)
- 23日 FM放送議会番組収録
- 27日 市議会3月定例議会(～3月22日)、消防議員連盟
- 28日 産業建設常任委員会

3月

- 2日 広報分科会
- 7日 全員協議会、広報分科会
- 8日 議会運営委員会
- 9日 広聴分科会、広報分科会
- 10日 公共施設の在り方に関する調査特別委員会、議会改革推進会議
- 17日 正副委員長会議、議会運営委員会、広報分科会
- 22日 全員協議会、議会運営委員会
- 23日 市議会議員研修会
- 24日 FM放送議会番組収録
- 27日 広報分科会
- 29日 広報分科会、FM放送議会番組収録
- 30日 広報分科会

市民の声 議会を見学して

議会を見学した児童の皆さんから寄せられた感想の一部をご紹介します。

●●● 十文字第一小学校 6年生の皆さん ●●●

2月3日に、議会の仕事について議員からお話を聞きました。

- ・議会のことに興味があったが、よく知るための一歩になりました。市民の願いが叶えられるまでの議会の働きや、市役所の各部署の働きなどがわかってよかったです。
- ・議場は、とても感懐があり大切な場所だということが心に残りました。



●●● 増田小学校 6年生の皆さん ●●●

3月9日に、一般質問の様子を見学しました。

- ・コンプライアンスの話聞き、いろんな人との信頼関係を築いて、この学校や地域をもっとよくしていきたいです。そして、自分をもっとよく頼られる存在に近づいていきたいです。
- ・議会では学校生活のことや、未来のことを良くしようと話し合われていることがうれしかったです。自分も良くするためにがんばりたいです。



編集後記

イギリスのEU離脱に始まり、アメリカのトランプ大統領誕生。さらに、中国の軍事力増強、韓国の内政混乱、北朝鮮のミサイル発射等々。日本を取り巻く環境が目まぐるしくなっています。

国内においては、相次ぐ自然災害の発生。日本は、「日本第一主義」で、デフレからの脱却、東京一極集中から地方回帰へと再生する年となるよう願っています。雪解け後の、力強くて若々しい芽吹きのように。

(佐藤 誠洋)

◇ 広報広聴委員会広報分科会 ◇

分科会長	佐々木 誠
副分科会長	奥山 豊和
委員	高橋 聖悟
	高橋 和樹
	佐藤 誠洋
	立身 万千子
	阿部 正夫